

# 平成27年度 教育事業 海からのメッセージ

## ～錦江湾・大隅半島ゴムボート・カヌー縦断の旅～

- 1 趣 旨 水深200mの深海をもつ雄大な鹿児島湾（錦江湾）を舞台に、異年齢との交流を図りながら自然の素晴らしさや厳しさを体験することにより、「生きる力」を育む。  
また、長期冒険型活動を通して、不登校など心に悩みをもつ青少年の自立を支援する。
- 2 期 日 平成27年8月22日（土）～8月24日（月）（6泊7日の予定を2泊3日に短縮）
- 3 参加対象 小学校5年生～高校生（不登校など心に悩みをもつ児童・生徒を含む。）
- 4 募集定員 30名
- 5 参加者 26名（小学生18名 中学生6名 高校生2名）
- 6 指導者 江口 智昭 氏（アウトドアショップ キャメル）  
長濱 香代 氏（看護師）  
国立大隅青少年自然の家職員  
ボランティア7名

### 7 日 程

	8月22日（土）	8月23日（日）	8月24日（月）
活動内容	9:30 受付	5:00 起床・洗面	5:00 起床・洗面
	10:00 出会いのつどい	5:30 朝食準備	5:30 テント撤収・荷物整理
	10:20 オリエンテーション	6:00 朝食・健康観察	6:00 朝食・健康観察
	11:20 安全のための注意事項	7:00 更衣・準備	7:00 更衣・準備
	11:35 講義 「体調管理について」	7:30 バス移動	7:30 バス出発（古江港へ）
	11:50 昼食（弁当）着替え	8:00 出発準備	8:00 出発
	13:00 出発準備	8:30 出発	10:30 ゴール（カヌー艇庫前）
	13:30 出発式	10:30 荒平海岸到着	10:45 到着式
	13:50 出発	昼食（弁当）	11:00 片付け・シャワー
	14:50 新城郵便局前折り返し	11:30 荒平海岸出発	11:45 昼食（弁当）・健康観察
	16:00 新城海の家ゴール	15:00 古江港到着	12:30 アンケート記入
	16:30 シャワー・着替え	15:50 バス移動（新城海の家へ）	13:00 別れのつどい
	17:30 テント設営	16:00 シャワー・着替え	13:20 解散
	18:00 夕食準備	16:30 夕食準備	
	19:00 夕食・健康観察	17:30 夕食・健康観察	
	20:00 班活動	19:00 キャンプファイヤー	
	20:30 振り返り	21:00 振り返り	
21:30 就寝	21:30 就寝		

### 8 事業運営について

- (1) 参加者が意欲的に取り組み、成就感や達成感を味わうことができるように、ゴムボートとカヌーの漕艇を組み合わせ、最終ゴールを新城海の家に設定するなどの工夫を行った。
- (2) 安全に自主的に活動できるように、安全指導や体調管理についての講義の時間を設定した。また、常にスタッフ間では連絡・連携をとると共に、今回は桜島噴火警戒や台風接近に伴い、コースや期間の変更を行ったため、特に気象情報は細かく入手したり、鹿児島海上保安部や関係漁業組合等との連絡も密にしたりして、安全確保に努めた。
- (3) 班を基本として活動し、目標に向かって協力したり自分の役割を果たしたりすることができるようにした。また、班付きボランティアを意図的に配置して、個に応じた支援が手厚くできるようにした。



## 9 事業の実際

- (1) 1日目の出会いのつどいでは、互いに緊張感が感じられたが、自己紹介や班旗づくりなどを通して、徐々に打ち解け合うことができた。また、個人とグループの目標設定をしたり、安全や健康管理に関する学習を行ったりしたことで、意欲を高めるとともに心構えをもたせることができた。午後は、初めてのゴムボート漕艇ということで、導入時に練習を少し行ってから活動に入った。しばらくすると各班の特徴や課題が現れ、次の日へ向けての見通しを持たせることができた。
- (2) 2日目は、短縮日程にした中で最も長い終日の活動となるため、参加者のやる気が感じられた。すべての班がゴールすることができたが、互いの思いがまとまらず協力することの難しさも実感することもあり、集団として意義のある時間となった。また、夜はキャンプファイヤーでの交流を通して、参加者同士のつながりを深め、最終日への意欲を高めることができた。
- (3) 3日目は、天候が崩れてきたが、全員が予定通りに協力してゴールすることができ、達成感を味わうことができた。到着式では代表児童が、班長としての苦労や喜び、来年も参加したいという思いを堂々と発表することができた。
- (4) ゴムボート漕艇やテント設営などを班で活動することによって、班内で役割分担をしながら協力して取り組むことができた。時間を追うごとに少しずつ自主的に活動する場面が多くなり、各班のボランティアの指導や指示も少なくなっていった。また、グループミーティングや健康チェック等を確実にを行い、ボランティアが参加者に寄り添いながら様子を把握することで、個に応じた支援を行い、参加者の主体的な活動を引き出すことができた。
- (5) ゴムボート漕艇が主活動であったが、休憩中に海水浴をしてリフレッシュしたり、イルカの群れに遭遇した際にはウォッチングを楽しんだりするなど、海の素晴らしさに十分ふれることができた。

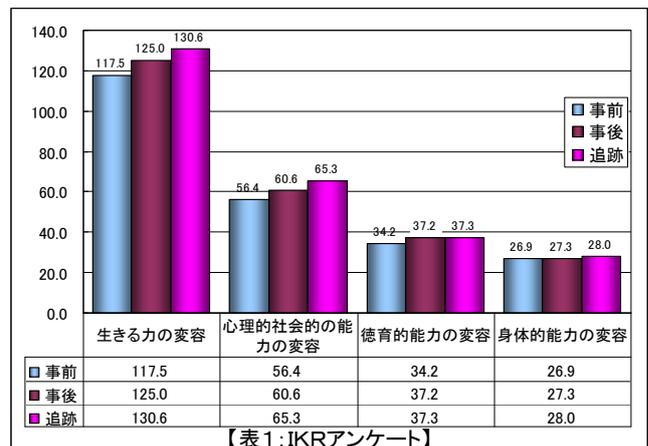


## 10 アンケート結果

### (1) IKRアンケート結果

生きる力の変容を見ると、事前から事後で7.5ポイント、事前から追跡（再会実施後）で13.1ポイント上昇していた。【表1】

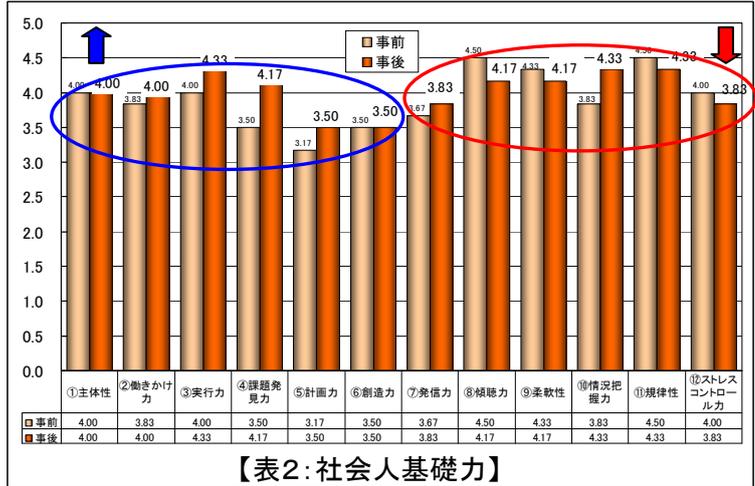
28調査項目の中で、1ポイント以上の伸びが見られたのが、「先を見通して、自分で計画が立てられる。(心理的社会的能力, 視野・判断)」, 「いやなことは、いやとはっきり言える。(心理的社会的能力, 非依存)」であった。2泊3日ではあったが、自分のめあてに向かって計画的に活動したり、班の中で自分の考えを出し合ったりできたことが伺える。



【表1:IKRアンケート】

(2) ボランティアの社会人基礎力アンケート結果

社会人基礎力は、前に踏み出す力(①~③)と考え抜く力(④~⑥)は向上傾向が見られたが、チームで働く力(⑦~⑫)は減少傾向が見られた。これは、「参加者への働きかけや目標設定による活動が十分にできた。」と感じた反面、「参加者の思いを引き出したり理解したりすることが不十分だった。」と振り返っていることが見て取れる。【表2】今回は、短縮日課での実施となったため、課題解決へ向けた話し合いの時間や子供たちの交流に時間をかけることができなかったことが要因だと考えられる。



11 参加者・ボランティア・保護者の感想

(1) 参加者の感想

今日は、いよいよ海からのメッセージ最終日。この3日間で、色々なことを学びました。みんなも私も少しずつ成長できたのではないのでしょうか？今朝、雨が降ってきたので、「ゴムボートをこげない？」みたいな感じになっていたのですが、無事晴れて良かったです。あと、良かったことが1点、最初にゴールできて達成感を味わえたことです。集団行動って大変だなと改めて思いました。これらのことを生かしてこれからもがんばりたいと思います。

(2) ボランティアの感想

今回「海からのメッセージ」に初めてボランティアとして参加し、ボートやキャンプなどで子供たちと触れ合うことで様々なことを気付かされ、自分の無力さも実感した。ボートの時、子供たちが疲れてしまって、オールをこぐのを止めてしまった。この時に子供たちが「がんばろう」と思える言葉掛けを行うことができなかったため、その後もよくない状態が続いてしまった。このような状況を変えられるような力を身に付けなければ、子供たちの成長に活動が繋がらないと思う。今回のボランティアでも多くのことが学べたので、とてもよい機会になったと思う。

(3) 保護者の感想

主催の方や協力していただいたリーダーの方々のお話を大変楽しそうに話していました。企画もですが、家族以外のいろいろな大人からどのような体験を得られるのが子供のこれからの成長の伸びしろを育ててくれると思います。そういう点で素晴らしい大人と仲間との出会いを作っていただいた今回の事業にとっても感謝しています。

12 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 班の目標を話し合って班旗に反映させたり、活動の基本を班行動としたりしたことで、所属意識や協調性を高めることができた。
- 航海中は、隊列の後方に離れすぎると活動意欲が低下するため、進み具合を見ながら隊列を変えることで意欲を維持しながら活動することができた。
- 個人の思いや考えが班内で衝突することも多くあったが、日を重ねるごとに思いやり助け合いながら活動する場面が多くなっていった。
- 事前調査で把握した実態については、スタッフで共通理解をして対応に生かし、また、活動中は、個の様子をしっかりと観察して、ミーティングなどで情報共有をしながら進めることができた。

